

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年3月21日

【評価実施概要】

事業所番号	0170401442		
法人名	株式会社 道央ケアセンター		
事業所名	グループホーム つつじⅢ		
所在地	札幌市手稲区金山1条2丁目1番39号 (電話) 011-686-7700		
評価機関名	(有)ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成20年3月14日	評価確定日	平成20年4月8日

【情報提供票より】(平成20年3月6日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17年 4月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	22 人	常勤9人, 非常勤13人, 常勤換算8.6人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	3階建ての	2～3階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円
敷 金	無		暖房費(11～3月)8,000円
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4) 利用者の概要(3月6日現在)

利用者人数	18名	男性 2名	女性 16名
要介護1	8名	要介護2	3名
要介護3	7名	要介護4	0名
要介護5	0名	要支援2	0名
年齢	平均 80.7歳	最低 63歳	最高 94歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	中垣病院・札幌病院
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

採光部を多く取り入れた回廊式の明るい作りでゆったりとし、食堂と居間が広々として共有スペースが確保され、利用者は落ち着いて暮らしている。毎週日曜日、職員は利用者とともに、自主消防訓練を実施し、消火器の確認、非常口の確認、非常階段の確認など実際に体を動かして点検作業をしている。運営推進委員会を2ヵ月ごとに開催し、近隣小・中学校からも出席し、利用者や家族も加わり、地域や学校との連携ができつつある。事業所の1階はデイサービスセンターで多目的室など事業所が利用できる部屋があり、家族の宿泊も可能となっている。職員の勤務体制は日勤者と夜勤者は区別されて記録では引き継ぎがなされているが、介護計画の作成などに夜勤者の参加は見られず、馴染みの関係作りなどに工夫が求められる。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価の要改善については、1項目で職員間で話し合い改善に向けて取り組みをしている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価の取り組みは、ガイドブックの参照がなく、着眼点の差異が見られる点、また、日勤者のみで夜勤専属体制で全職員の取り組みになっていない。工夫が求められる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	定期的に行っている運営推進会議では、地域の方々、家族のみならず、利用者も参加して懇談し、内容を吟味し、サービスの向上に活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族は面会時に気軽に話せる雰囲気になっている。細かいことでも家族の不安を取り除くように配慮し、支援している。また、運営推進会議に参加して意見を述べる体制になっている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	近隣にある小・中学校の行事や町内会の行事など交流がある。また、近くの美容室では、美容師がヘルパー資格所持者で理解が得られ、良好な関係作りがなされている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所として理念のほかに「Policy」も掲げて掲示されているが、地域の中で暮らし続ける内容は含まれていない。	○	理念の中に、地域密着型サービスへの取り組みを含めた明文化が求められる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、日々の暮らしの中で、常に意識して理念の具体化に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣小・中学校の行事や町内会行事など交流がある。また、近くの美容室利用には理解のある美容師と関係が良好である。地域からボランティアがきている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	日勤職員は自己評価の取り組みをしたが、ガイドブックの参照がなく、着眼点に差異が見られる。夜勤者は取り組みがなく、全職員で課題を共有していない。	○	夜勤者との関係を工夫し、全職員が共通の観点で取り組むことが求められる。

札幌市手稲区 グループホーム つつじⅢ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に開催している運営推進会議では、地域の方々、家族のみならず利用者も参加して懇談し、内容を吟味して、サービスの向上に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所は行政に対してこまめに連絡し、指導を頂き、信頼される事業所作りを目指して努力している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	事業所としての「たより」の発行はしていない。2ヵ月毎に金銭出納明細の報告書に個別に状況報告を記載して家族に知らせている。職員の異動や行事の報告はない。	○	事業所の取り組みや、利用者の暮らしぶりなど「ホームたより」を発行し、家族に共通に知らせることが求められる。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族は面会時に気軽に話せる雰囲気になっている。また、運営推進会議に出席し意見を述べる機会を設けている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は最小限に押さえて、利用者へのダメージを防ぐように配慮している。止む得ない場合、管理者ほか職員は係わりを多く持つように支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の質の向上を望んで、内部、外部ともに研修の機会を確保しているが、無資格者もあり、さらに夜勤者の研修の場が少ない。	○	毎月テーマを決めて内部で研修をしている。ただし、夜勤者は参加していない。外部研修への積極的な参加と、今後の課題として職員全体のレベルアップを期待する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は同業者の会議に参加している。同系列のグループホームと利用者の交流がある。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人と家族が見学や話し合いをし、納得してからサービスを開始するが、職員は馴染みの関係作りに努力し支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は高ぶらず、人生の先輩として尊敬し、一緒に過ごして学んだり、支え合う関係を維持するように努力している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の個性を重んじ、それぞれの意向を把握して気持ちにそえるように検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人が事業所で暮らすために介護計画を作成しているが、関係者との話し合いや、家族の意見などアイデアの反映は少ない。また、夜勤者を含めた作成になっていない。	○	チームでつくる利用者本位の介護計画の作成を基本として職員全員、さらに、関係者を含めた話し合いをする努力をして取り組むことを期待する。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月の会議で利用者の現状と介護計画が連動して妥当か、否か、個別の記録を参考にして話し合って検討し、見直しをしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の希望に応じて、理・美容室同行、病院の受診同行など個別に支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者はそれぞれ掛り付け医師を確保し、日常的に受診をしている。また、気軽に相談できる体制ができています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	協力医療機関と相談しながら対応することで、現段階では状況によって検討する。	○	その都度検討する仕組みになっているが、早い段階から、重度化や終末期に向けた指針作り、さらに、職員間の共有化が望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	人生の先輩として一人ひとりを尊重し、誇りや人格を重んじ、個人情報の取り扱いにも注意をはらっている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの思いを汲み取り、起床時間、食事の場所など、本人のペースを大事にし、その人らしい暮らしができるよう見守り、支援を行なっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員の見守る中、利用者のできる範囲で食事の準備や後片付けなどを手伝っている。食事は静かな曲のBGMが流れている中で、職員と一緒に食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	浴室は、清潔で落ち着いた色合いで安心して入浴を楽しむことができる。週2回の入浴であるが、一人で入浴したり、仲の良い人と入浴したりと、本人の意志を尊重している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員間での情報交換により、利用者の得意とする分野（掃除、片付け、漬け物作り、折り紙、料理、習字、カラオケ、体操）を見守り、日々の暮らしに張り合いがもてるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	職員の見守る中、散歩や理・美容室に行った帰りにコンビニなどで買物をしている。年に2度程、近隣の公園に事業所の車で、弁当を持参し、花見や紅葉を観に行ったり、夏祭りなどを楽しんでいるが、外出する機会をさらに増やすことで、利用者の生活に活気と満足感が得られると思われる。	○	利用者の身体機能低下防止の観点からも、屋外行事や楽しい企画を取り入れて、戸外で過ごす機会をもつように、取り組みを期待する。
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関の鍵を掛けていないが、1階のディサービスと玄関が共用のため、外出傾向のあるディサービス利用者の時、施錠している。日常的にはエレベーターを利用し、外出時は職員が同行し、1階には事務所もあり、職員が常駐している。		

札幌市手稲区 グループホーム つつじⅢ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎週、日曜日に内部で自主的に消防訓練として消火器の点検や非常口の確認などを利用者とともに行なっている。避難訓練は、消防署の協力のもと、ディサービスと一緒に、年2回、日中、夜間想定で行なっている。災害時には、町内会を通じて近隣の協力を呼び掛けている。また、隣接の中垣病院とはお互いに協力し合うことを確認している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	協力医療機関の栄養士による指導のもと、職員が、毎月献立表を作成しバランスのある食事を提供している。摂取量や水分量は、チェック表にて職員全員が把握している。行事や誕生日の食事は、利用者の希望を取り入れ、楽しみになっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全体が広々として、採光も十分な明るい共用スペースで、利用者は、ベンチ椅子やソファなどで読書や談話、お茶を飲んだりと思いつきにゆったりとした時間を過ごしている。壁面に共同の作品や行事などの写真が飾ってあると、生活感があり、よりアットホームな感じになると思われる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室の壁紙は、それぞれ趣のある色合に工夫している。利用者が入居前に使用していた、ベット、ダンス、鏡台、仏壇等の馴染みの物を配置しており、写真や飾り物などで居心地のよい環境になるよう配慮している。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。